



## 「心のこもった挨拶が交わされる学校に」

校長 井之上 良一

今回は、「あいさつ」はなぜ大切なのかということについて改めて考えてみたいと思います。

言うまでもなく、あいさつは人間関係を円滑にしていくために必要不可欠なものです。「あいさつ」は漢字で「挨拶」と表記します。その語源は、「一挨拶(いちあいいっさつ)」という仏教用語で、修行をしている者どうしが問答をして相手から良いものを引き出し合う様子を表す言葉だそうです。

「あいさつは心と心のメッセージ」といった標語を見かけたりしますが、あいさつには「あなたを大事に思っていますよ」という気持ちを伝え、相手に存在感を与える作用があることを考えると、この語源も納得できるような気がします。

また、あいさつは社会常識であり、よく作法やマナーといった語られ方をします。しかし、私はきわめて次元の高い行為ではないのかと思っています。このことは、あいさつが単に日常の「おはよう」、「こんにちは」などのあいさつ言葉や行為だけを指すものではなく、広い意味で使われていることを考えるとよく分かります。例えば、会ったときや別れるときなどに交わす言葉や動作もあいさつに含まれますし、お中元やお歳暮を「盆暮れのあいさつ」と言ったりもします。さらには、何かお世話になったときにするお礼の言葉や手紙、贈り物などもあいさつと言ったりします。

このように見てくると、相手のことを思う気持ちや感謝の念が行動化されたものがあいさつだと言えるのではないのでしょうか。いずれにせよ、あいさつには人としての生き方や有り様が色濃く投影されるものだと思います。

本県出身の政治家で、自民党の副総裁まで務めた二階堂進という人がいます。この二階堂先生のお母さんは実にあいさつに厳しい人だったそうです。小さい頃、来客へのあいさつが悪かったりすると、尻をたたかれたり、ご飯を食べさせてもらえなかったりしたという話を聞いたことがあります。何もそこまで思いたくなりますが、進少年が世間に出て恥をかかないように、これだけは体得させてやりたかったのではないかと思います。さらに言えば、世間と向き合う中で、お母さんはあいさつの大切さを嫌と言うほど思い知らされていたのではないのでしょうか。

学校で交わされるあいさつの様子一つで、子どもたちの心の豊かさが推し量れるといっても過言ではありません。明るく大きな声で日常のあいさつができ、感謝の心を持ち、また伝えられる子どもたちに育ってほしいと願いながら、今後ともあいさつの指導に力を入れていきたいと思ひます。

## ひおき学フィールドワーク 5/30

日置市の史跡や自然などについて現地で学習する「ひおき学フィールドワーク」を実施しました。今回は日吉地域の桂山寺や大乘寺跡、園林寺跡などを訪問し、日置市観光ガイドの佐々木憲一郎さんに説明をいただきながら、学習を行いました。佐々木さんの分かりやすい説明で、生徒たちも知識を広げることができました。さらに、課題を追究しようと積極的に質問する姿勢が見られ、学習をより深めることができました。今回のフィールドワークを通して、日置市ゆかりの先人たちのすばらしい功績を改めて知ることができ、故郷への誇りをさらに高めることにつながったようです。



## ウメ販売 5/22

前号でお伝えしたウメ収穫に続き、その翌日に1年生が Chest 館でウメ販売を行いました。販売日の朝は、早めに登校した生徒会長の さんを中心に数名の生徒がウメの実の状態確認や詰め直し、袋とじなどの作業を丁寧に行ってくれ、とてもきれいな状態で出荷することができました。販売には、国際交流員のアンさんもわざわざ駆けつけ、お手伝いいただきました。1時間程度の販売でしたが、見事に完売することができ、生徒全員が大喜びする姿が見られました。昨年度からキャリア教育の視点をとり入れ、ウメ収穫・販売に取り組んでいます。購入してくださるお客さまに喜んでいただくためにはどうすればよいのか、生徒たちがしっかりと考え、行動できたすばらしい活動になりました。



## 不審者対応訓練 5/29

日置警察署のご協力をいただき、不審者が校内に侵入したとの想定で対応訓練を実施しました。生徒はもちろんのこと、職員にも不審者役を演じていただく署員の方がどのような動きをとるのか知らされず、全員での対応力が試される訓練でした。職員の不審者への適切な対応、生徒の状況に応じた素早い避難により、指定された避難場所に無事移動することができました。



昨今、子どもたちが被害に遭う痛ましい事件・事故が続いています。子どもたちの安全を確保するには、保護者・地域・関係機関のお力が不可欠です。今後も登下校を含め、子どもたちの見守り活動にご協力いただきますようお願い申し上げます。

## 日置市「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業の取組

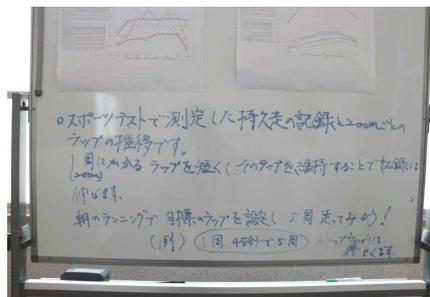
今年度から2年間、日置市の指定を受けて「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業の研究に土橋小学校とともに取り組むことになりました。本事業は、日置市の小中一貫教育の3事業のひとつであり、主に、

- ◆ 9年間を見通した体育学習時の指導法改善
- ◆ 「一校一運動」、「一人一運動」の設定・推進
- ◆ 体育施設の充実
- ◆ 「一家庭一運動」の実践

を行います。研究は始まったばかりですが、中学校でも小学校の実践をとり入れ、朝のランニングを開始しました。生徒はスポーツテストの結果を分析し、目標（ラップタイム）を設定して取り組んでいます。運動好きで体力づくりに励む子どもたちを育てていきたいと思ひます。



朝のランニング



ラップタイムの設定方法の掲示

## PTA小中合同通学路草払い・点検 5/26

小・中学校PTA合同の通学路草払い・点検を実施しました。P戸数の減少もあり、以前のように広い範囲を作業することができなくなりましたが、通学路として利用している市道を中心に草払いを行いました。自治会の作業と重なり、ご迷惑をおかけしたところもありましたが、児童生徒が安全に通学できるように整備することができました。その後は、保健生活部による通学路点検を行いました。通学路以外にも防空壕跡や土砂災害の起こりそうな場所などを確認することができました。この結果は、6月26日に開催される土橋校区スクールゾーン委員会で報告し、関係機関へ改善を要望する予定です。



## 朝読書ビブリオバトル

今年度も学習文化部が企画・運営を行う「朝読書ビブリオバトル」が始まりました。第1回目は経験豊かな3年生が行い、下級生のよいお手本を示してくれました。今後、全生徒が経験することになっています。読書活動の充実につながっていくものと期待しています。



## 「3つの時刻」の定着

本校では、①起床時刻、②就寝時刻、③家庭学習開始時刻を設定して、規則正しい生活リズムをつくる「3つの時刻」の定着をめざしています。5月28日の生徒集会で、保体生活部長のさんが呼びかけを行い、各自で3つの時刻を設定する機会を設けました。規則正しい生活は、学力や体力の向上の礎になるものです。ご家庭でも確認をしていただき、定着が図られるようにご支援をよろしくお祈いします。

